

学校教育目標

よく考えて実行する杉本小の子
健康でたくましい杉本小の子
思いやりのある杉本小の子



海老名市立杉本小学校



学 校 便 り

令和7年8月28日
校長 奥泉 憲

2学期 スタート

令和7年度の第2学期がスタートしました。初日の朝、子どもたちが元気に登校してきました。始業式でしっかりと整列した子どもたちの様子を見てみると、約1か月半会えなかったただけなのに、子どもたちの表情がどの子も少したくましくなったように感じました。

2学期、子どもたちは、約4か月間の学校生活を過ごすことになります。6年生は、もう来週には修学旅行が控えており、10月開催の運動会に向けて、今月半ばから各学年での運動会の練習も予定されています。そのほか、遠足や校外学習、音楽発表会など子どもたちが楽しみにしている行事もたくさんあります。様々な学習活動を通して、子どもたち一人ひとりが健やかに成長していくことができるよう職員一同力を合わせてまいります。保護者の皆様、ご支援ご理解のほどよろしくお願いいたします。

インクルの視点① 『不揃いだからこそ』

これから海老名市では各校で「インクルーシブ教育」に取り組んでいくことになります。すべての子どもたちが共に学べる環境づくり目指します。先日、宮大工の小川三夫さんの著書「不揃いの木を組む」という本を読みました。インクルーシブ教育に関しても大切な視点が書かれてあったので紹介します。

小川さんは、法輪寺三重塔や薬師寺金堂など国宝に指定されている建築物の再建にも関わってこられました。小川さんの言葉には、私たちの仲間づくり、学級づくりのヒントがたくさん詰まっています。法隆寺や薬師寺の塔を内部から見ると、「不揃いな材木」でつくられており、それらが支え合って築1000年を超える塔が存在しているそうです。建築物は、場所によってかかる力の強さや方向が異なるため、それぞれの木材の強度に合わせて組み合わせるそうで、その技術を宮大工の世界では、「総持ち」というそうです。小川さんは、この「総持ち」という考え方は、学校や社会で人が育つ環境に似ていて、「総持ち、みんなで持つ、支える。不揃いこそ安定感があるし強い。だから、集団で技を学ぶには不揃いな子がいたほうがいい。」と言っています。小川さんの言う「不揃い」とは、子どもたちそれぞれの個性であると、私は考えます。一人ひとりが持って生まれた個性は、まさに不揃いであり、ただ一つのものであります。これからの学校づくりにも、ぜひ「総持ち」の考え方を生かしていきたいです。

学校長 奥泉 憲